

証券コード6859

2020年度(2021年3月期) 第3四半期決算について

2021年2月24日 エスペック株式会社

2020年度第3四半期 決算概要

一部では回復の兆しがあるものの設備投資の抑制傾向が継続し、前年同期比で減収減益

	前年同期比	予想比(11月時点)
■受注高	× すべての事業が下回り、減少	〇 装置事業(すべての製品群)と サービス事業により上回る
■売上高	装置事業(環境試験器・エナジーデ × バイス装置)とサービス事業が下回 り、減少	〇 装置事業・サービス事業は予想 通り、その他事業はやや上回る
■営業利益	× 減収により減少	〇 原価率が想定より改善し上回る
■経常利益 四半期純利益 [※]	× 営業利益の減少により減少	〇 営業利益の増加により上回る

■ 2月10日、第3四半期の業績をふまえ通期業績予想を上方修正 期末配当予想についても8円増額の38円に修正(中間10円、年間48円)

2020年度よりESPEC EUROPE(ドイツ)とESPEC ENGINEERING (THAILAND) を連結の範囲に含めています。

※親会社株主に帰属する四半期純利益

損益の状況

(百万円)

	2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	前年同期比
受注高	33,705	27,448	△18.6%
売上高	29,805	26,526	△11.0%
売上原価 (原価率)	19,034 (63.9%)	17,401 (65.6%)	△8.6% (1.7pt 悪化)
売上総利益	10,771	9,125	△15.3%
販管費	7,959	7,794	△2.1%
営業利益	2,812	1,330	△52.7%
経常利益	2,986	1,491	△50.1%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,096	943	△55.0%

セグメント別の損益の状況

				(百万円)
セグメント		2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	前年 同期比
	受注高	26,755	22,340	△16.5%
装置事業	売上高	24,408	20,745	△15.0%
	営業利益	2,429	1,073	△55.8%
	受注高	4,780	4,567	△4.5%
サービス事業	売上高	4,610	4,114	△10.8%
	営業利益	443	191	△56.9%
	受注高	2,331	778	△66.6%
その他事業		945	1,848	95.6%
	営業利益	△63	64	_
	受注高	△162	△237	_
連結消去	売上高	△158	△182	_
	営業利益	2	1	<u> </u>
	受注高	33,705	27,448	△18.6%
計	売上高	29,805	26,526	△11.0 %
	営業利益	2,812	1,330	△52.7%

4

装置事業セグメント

(百万円)

	2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	前年同期比
受注高	26,755	22,340	△16.5%
売上高	24,408	20,745	△15.0%
営業利益 [利益率(%)]	2,429 [10.0%]	1,073 [5.2%]	△55.8%

環境試験器

- 国内では、顧客の投資抑制傾向が継続しており、自動車、エレクトロニクスをはじめ全般で 汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに前年同期比で減少
- 海外では、東南アジア、韓国の売上高は前年同期比で増加したが、中国、欧州、米国は減少

エナジーデバイス装置

■ 二次電池評価装置、燃料電池評価装置いずれも低調に推移し、受注高・売上高ともに減少

半導体関連装置

主にメモリ関連の投資があり、受注高・売上高ともに増加

サービス事業セグメント

(百万円)

	2019年度	2020年度	前年
	3Q累計	3Q累計	同期比
受注高	4,780	4,567	△4.5%
売上高	4,610	4,114	Δ10.8%
営業利益	443	191	△56.9%
[利益率(%)]	[9.6%]	[4.6%]	

アフターサービス・エンジニアリング

■受注高は前年同期並みとなるも、売上高は主に第1四半期の活動の制約により減少

受託試験・レンタル

■主に受託試験が低調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに減少

その他事業セグメント

(百万円)

	2019年度	2020年度	前年
	3Q累計	3Q累計	同期比
受注高	2,331	778	△66.6%
売上高	945	1,848	95.6%
営業利益	△63	64	_
[利益率(%)]	[△6.7%]	[3.5%]	

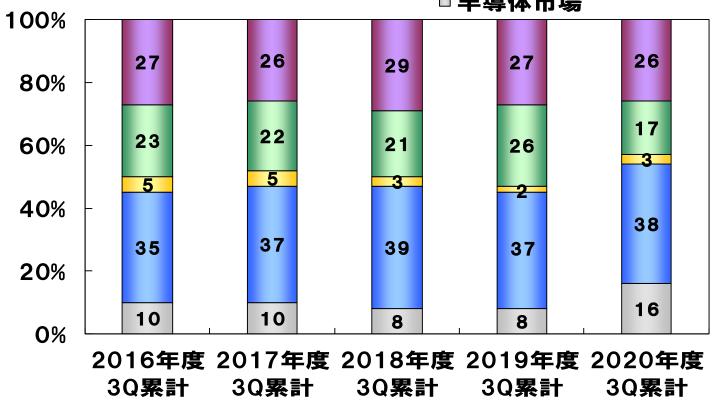
環境保全·植物育成装置

■ 植物工場の大型受注があった前年同期比で受注高は減少したが、 同大型案件の売上計上により売上高は増加

市場別売上構成比

単 体(装置事業)

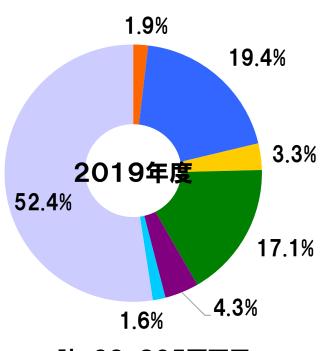
- ■その他市場
- □自動車市場
- □フラットパネルディスプレイ市場
- ■電子部品·電子機器市場
- □半導体市場



地域別売上構成比

2019年度3Q累計

海外売上高比率: 47.6%



計 29,805百万円

(海外売上高:14,176百万円)

2020年度3Q累計

海外売上高比率: 47. 9%

■台湾

■中国

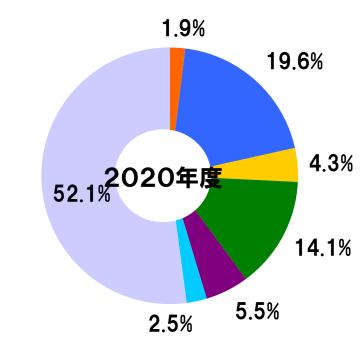
■韓国

■欧米

■その他

日本

■東南アジア



計 26,526百万円

(海外売上高:12,703百万円)

2020年度 業績予想

(百万円)

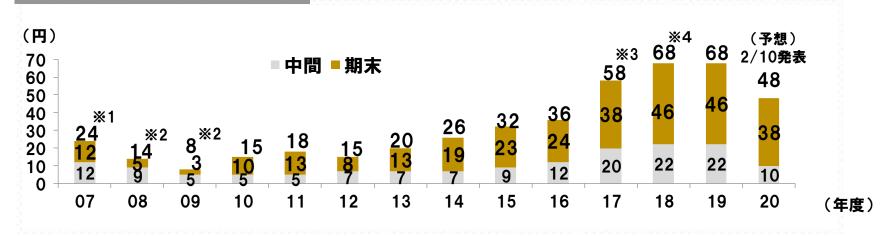
	2019年度	2020年度	2020年度			
	通期	通期	30累計		修正予想	
	実績	(11月予想) 	実績 	40	通期	前期比
受注高	43,571	35,000	27,448	8,552	36,000	△17.4%
売上高	42,443	37,000	26,526	10,975	37,500	Δ11.6%
売上総利益 [利益率(%)]	14,719 [34.7%]	12,100 [32.7%]	9, 125 [34.4%]	3,520 [32.1%]	12,644 [33.7%]	△14.1% [△1.0pt]
販管費 [販管費率(%)]	10,976 [25.9%]	10,400 [28.1%]	7,794 [29.4%]	2,850 [26.0%]	10,644 [28.4%]	△3.0% [+2.5pt]
営業利益 [利益率(%)]	3, 742 [8.8%]	1,700 [4.6%]	1,330 [5.0%]	671 [6.1%]	2,000 [5.3%]	△46.6%
経常利益 [利益率(%)]	3,933 [9.3%]	1,800 [4.9%]	1,491 [5.6%]	300 [2.7%]	2,100 [5.6%]	△46.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益 [利益率(%)]	2,818 [6.6%]	1,200 [3.2%]	943 [3.6%]	200 [1.8%]	1,400 [3.7%]	△50.3%

2020年度 配当予想

利益配分に関する基本方針

当社グループは、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題と認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であると考えております。配当につきましては、継続性と連結配当性向を勘案して決定しております。

一株当たり配当金と配当性向



配当性向

47% - - 21% 22% 29% 30% 29% 31% 37% 40% 36%** 55% 78%

- ※1.2007年度は創業60周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む
- ※2.2008・2009年度は当期純損失ながら配当を実施
- ※3.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む
- ※4.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

TOPICS(1)

(2021年2月)

(2021年2月)

地球上のさまざまな気象環境を再現 世界初「全天候型試験ラボ」オープン

- ·全天候(温湿度、雪、雨、太陽光、霧、風) に加え、動的気象環境※を再現
- ・最先端技術の課題解決への貢献と、環境創造技術の高度化を目指す
- ※刻々と変化する気象環境(みぞれ⇒雪、雨⇒霧の変化など)

- バイオ医薬品やワクチン等を安定輸送 GDP対応「定温輸送保冷庫」開発
- ・精密な温度制御(-20℃~+40℃)により医薬品の安定輸送を実現
- ・振動に強く、省電力、ポータブルで倉庫 から医療機関への自動車輸送に最適
- ※GDP (医薬品の適正流通ガイドライン)





TOPICS²

(2021年1月)

(2021年1月)

関西主要拠点の使用電力を 100%再生可能エネルギーに切替え

- ・関西主要5拠点において再生可能エネルギー由来の電力に切り替え (連結電力使用量の40%に相当)
- ・二酸化炭素排出量(SCOPE1+2) 年間23%削減を見込む
- ・再生可能エネルギー価値(トラッキング付 非化石証書※)を付加した電力を使用

※供給される電気に、由来となる電源種や発電所所在 地等の属性情報を付加(トラッキング)した再生可能エネ ルギー指定の非化石証書を組み合わせることで、非化 石価値の由来がわかる再生可能エネルギー電気の供給 を実質的に実現するもの

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・SDGs推進活動の一環として、従業員の 寄付金に会社が寄付金を上乗せする マッチングギフト制度を設置
- ・子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付(第1回目2022年4月予定)



ロゴマーク

社外からの評価

2021年2月

・サステナビリティレポートが環境コミュニケーション大賞「優良賞」を受賞 (環境省、地球・人間環境フォーラム主催)

2020年12月

- ・今年度初めてCDP気候変動質問書への自主回答を行い「Bスコア」に認定
- ・日興アイ・アール「2020年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」 優秀サイトに選定
- ・モーニングスター株式会社 「Gomez IRサイトランキング2020」 銅賞を受賞(業種別28位)

2020年11月

- ・日本経済新聞社「第4回スマートワーク経営調査」で3つ星に認定
- ・日本経済新聞社「日経SDGs経営調査2020」で3.5星に評価
- ・日刊工業新聞社(経産省後援)「新型コロナ対応カランキング」163位

2020年6月

・経産省「グローバルニッチトップ(GNT)企業100選」を連続受賞













この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。 それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、 当社が計画・予測したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは 異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは ございません。

【お問い合わせ先】
エスペック株式会社
〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795
e-mail ir-div@espec.jp
コーポレートコミュニケーション部 部長 西谷 IR担当 中川・大川

参考資料

会社概要

環境試験器の世界トップメーカー

会社名 エスペック 株式会社

本社住所 大阪市 北区 天神橋 3-5-6

代表者 石田 雅昭(いしだ まさあき)

創業年月日 1947年(昭和22年)7月25日

1954年(昭和29年)1月13日 設立年月日

資 本 金 6,895百万円

発行済株式総数 23,781,394株

従業員数 1. 512名(連結)

事業内容 環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、

植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など

環境試験器シェア 世界30%以上 国内60%以上

(2020年3月31日現在)



本社

グローバルネットワーク

連結子会社 12社 (海外9社、国内3社)

海外ネットワーク 46カ国42社 国内拠点 25カ所 国内代理店 46社

欧州

●ESPEC EUROPE GmbH △ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

日本

エスペック(株)

- ●エスペックテストシステム(株)
- ●エスペック九州(株)
- ●エスペックミック(株)

△(株)ミックファーム大口

アジア

- ●上海愛斯佩克環境設備有限公司
- ●愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- ●愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司
- ●愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ●ESPEC(CHINA)LIMITED
- **•**ESPEC KOREA CORP.
- ●ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD. △ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

米国

ESPEC NORTH AMERICA, INC.

●印・・・連結子会社 △印・・・・非連結子会社

事業概要(各事業の市場/用途)

		主要	[製品	市場	用途	売上構成比 2019年度
壮	環境試験器	・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・ハストチャンバー	・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 ・FPD装置	・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL	・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査	
装置事業	エナジーデバイス装置	・二次電池充放電サ ・二次電池安全性評 ・燃料電池評価装置	価装置	・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池	・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産	81%
	半導体関連装置	・バーンイン装置・半導体評価装置	・計測システム	・半導体 ・自動車	・生産、検査 ・開発、評価	
サービ	アフターサービス エンジニアリング	・アフターサービス	・機器周辺工事	・電子部品、電子機器	-	
サービス事業	受託試験 レンタル	・受託試験・リセール	・機器レンタル・校正	・自動車・半導体	・R&D ・信頼性評価	15%
その世	環境保全	森づくり、水辺づくり	、都市緑化			
での業	植物育成装置	植物工場、研究用育	育苗装置など			4%

環境試験の沿革

環境試験とは

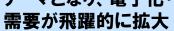
電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代> 日本で民生品の環境試験が JIS規格化





<1970年代~1990年代> 「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要な テーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い









<現在>

5G、loTや自動車の自動運転・電動化の開発分野において需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発







国内シェア 60%以上

世界シェア 30%以上

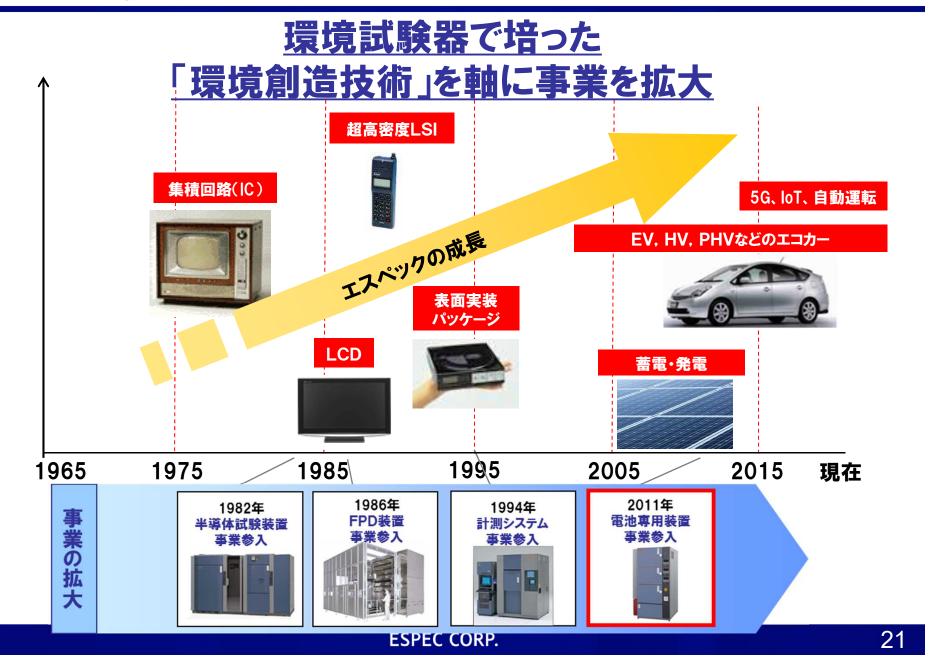
世界シェア No.1に



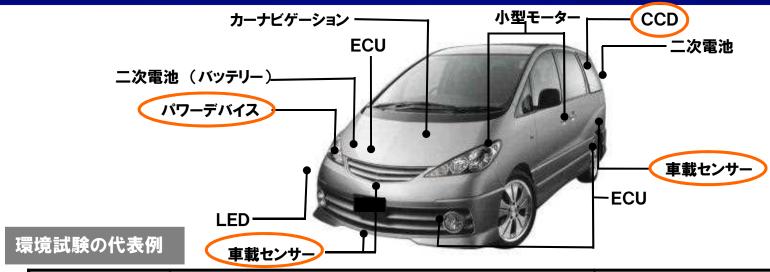
恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

20

事業の変遷



【装置事業】環境試験器の用途事例



デバイス		プロセス/試験条件	当社製品
【パワーデバイス】		■冷熱衝撃試験:-40℃⇔+125℃	冷熱衝撃装置
H H H H H H	検査	■高温放置: +175℃、+85℃	(小型)オーブン
Total State of the		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】	検査	■基板の温度サイクル試験: -40℃⇔+110℃	低温恒温器(プラチナス)/オーブン
	快重	■はんだ付け後の温度特性試験: -30℃⇒+85℃をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■冷熱衝撃試験: -30℃⇔RT⇔+80℃、-55℃⇔+155℃	冷熱衝撃装置
[CCD/CMOS]		■拡散試験: +150℃	小型オーブン
	生産	■洗浄後の乾燥:+85℃	クリーンオーブン
	評価	■スクリーニング: +85℃	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
		■温湿度試験:+85℃/+85%rh、+60℃/90%rh	恒温恒湿器(プラチナス)
	検査	■加速試験: +120℃/100%rh	HASTチャンバー
		■冷熱衝撃試験:-40℃⇔+125℃、-20℃⇔+85℃	冷熱衝撃装置

22

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2020年8月	ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズラインアップを拡充	・新たに急速温度変化タイプとして4器種を発売 シリーズで計32器種をラインアップ
2020年3月	輸送環境試験装置	・医薬品や医療機器の輸送環境を再現・バイオ医薬品の研究開発や医療機器の品質管理用途
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ	・自動車2台が入る大空間でさまざまな気象環境を再現
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ	・国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格に適合
2019年12月	スポット冷却加熱装置	·各種材料試験機との組み合わせで自動車などの 実使用環境での材料試験が可能
2018年12月	熟成庫ドライエイジング仕様	・霜取りによる温度上昇がなく、5℃未満を維持し ながら高湿環境の長期連続運転が可能 ・庫内殺菌モード搭載
2018年11月	車載用二次電池充放電テスター スタンダードタイプ	・大容量の車載用二次電池の充放電試験に対応
2018年10月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ 急速温度変化タイプ「5℃/分」	・IEC規格やドイツ自動車業界規格に適合 ・欧州Fガス規制に対応、低GWP冷媒(R-449A)搭載
2018年3月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ 急速温度変化タイプ	・欧州Fガス規制に対応、低GWP冷媒(R-449A)搭載

23

【装置事業】新製品紹介①

(2020年2月発売)

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ

<特長>

- ・国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格「LV124」に適合 (有試料3℃/分の急速温度変化試験が可能)
- ・低GWP冷媒(R-449A)を標準搭載

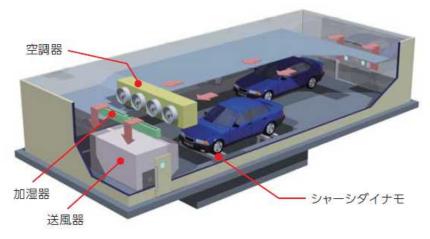
■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ

<特長>

- ・車2台が入る約500mの大空間でさまざまな 気象環境を精密に再現し、実車試験が行える
- ・温湿度に加え、日射、雨、雪、霧、風などの環境 因子を複合して再現可能



恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ



車2台が入る実車試験のイメージ

恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ

【装置事業】新製品紹介②

医療分野向け

(2020年2月発売)

■ 輸送環境試験装置

<特長>

- ・輸送時の温度と振動環境を同時に再現し 医薬品等の実輸送環境での試験が可能
- ・バイオ医薬品や試薬の研究開発用途と 医薬品や医療機器の品質管理用途の 2機種をラインアップ

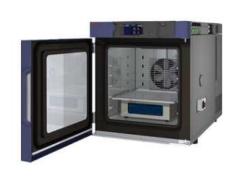
マテリアル分野向け

(2019年12月発売)

■ スポット冷却加熱装置

<特長>

- ・各種材料試験機との組み合わせで、温度を 付与した実使用環境での材料試験が可能
- ・試験片を効率的に冷却・加熱する当社独自の 新方式を採用





輸送環境試験装置の2機種





摩擦摩耗試験機・硬度計とのセットアップ例(左) スポット冷却加熱装置(右)

【装置事業】環境試験器の納入事例①

(2018年7月納入)

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式に なっており、試験用建材の 入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を 装備し、屋外の気象環境を 再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例②

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品:

大型恒温恒湿室

用途:

太陽光発電向けの

大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価 100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品:

- ①充放電試験用の恒温恒湿室
- ②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途:

- ①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
- ②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しない ことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

27

【装置事業】エナジーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次 電池の信頼性や安全性を確保するための装置





充放電サイクル評価装置 アドバンストバッテリーテスター 二次電池の性能や寿命を評価

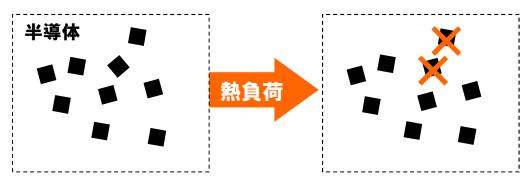
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



潜在的な初期故障を除去

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル 負荷



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電気的に評価

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No. 1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初 ネットワークを使った新サービス「エスペックオンラインシリーズ」を提供

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内4ヵ所、タイ1か所、中国2ヵ所に受託試験所を展開
- (国内:宇都宮・豊田・刈谷・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)
- ・計量法校正事業者認定制度 (JCSS) に基づく校正機関
- 世界初「バッテリー安全認証センター」 開設(2015年9月)
- ・車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した 試験・認証申請のワンストップサービスを提供



【バッテリー安全認証センター】

- ・第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携(2014年10月)(宇都宮テクノコンプレックス内)
- 国内初 ISO/IEC 17025※試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で同時取得
- 豊田試験所では、国内初ドイツ自動車業界規格「LV124」の全試験項目に対応

※ISO/IEC17025:試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認定機関が認定する国際標準規格

2020年5月「在宅オンラインサービス」を開始 お客さまの開発業務の継続を支援

ESPEC CORP.

当社製品を使用する場合

自宅から装置を操作、試料を監視

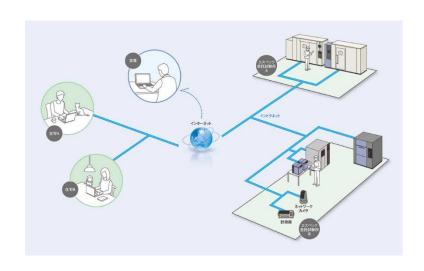
- ・集中管理(モニター・データ解析)
- ・稼働状況をメールで受け取り
- ・槽内監視カメラ(20年3月発売)で試料を監視

槽内監視カメライメージ

受託試験所を利用する場合

試験の開始から終了、輸送まですべて代行

・リモート商談 ・立ち合いレス ・遠隔指示



31

刈谷試験所の受託試験サービス グリーン電力100%を実現

2020年1月、グリーン電力証書*を活用し、受託試験所 国内初のグリーン電力化を実現。年間CO₂排出量約768tの削減を見込む

※再生可能エネルギーにより発電された電気の環境付加価値を証書発行事業者が第三者認証機関 (日本品質保証機構)の認証を得て制度として取引可能にしたもの





刈谷試験所

世界初 国連規則に対応 バッテリー安全認証センター

国連規則ECE R100-2. Part II で定められた 9項目の安全性試験の実施・認証機関への認 証申請をサポートするワンストップサービス (2015年9月 宇都宮テクノコンプレックスに開設)



圧壊試験機(第1安全試験室)



第2安全試験室

豊田試験所をリニューアル 日本初ドイツ自動車業界規格に対応

ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応し、グローバル化を進める日本の車載機器メーカーをサポート

(2019年9月 豊田試験所をリニューアル)



豊田試験所

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による 屋上・壁面緑化システム







植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを 最適にコントロールして植物を育成する植物工場 や研究用育苗装置



植物工場



ファイトトロン

【その他事業】

海洋深層水を使用した高付加価値野菜を生産

羽田空港近郊に設置した植物工場において、

海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値野菜を生産・販売





植物工場と生産野菜「ミネラリーフ」

【その他事業】納入事例

(2016年3月納入)

■鳥取大学乾燥地研究センター

納入製品:

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基 (高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途:

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など 乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子(小麦の乾燥ストレスを実験)

技術開発力の強化(新技術開発棟の紹介)

目的 : オープンイノベーションの促進による技術開発力の強化と

生物多様性保全の推進

コンセプト:「オープンイノベーション」

「オープンコミュニケーション」

「自然環境との共存」

所在地 : 兵庫県神戸市北区鹿の子台

(神戸R&Dセンター内)

稼働時期 : 2020年5月(2019年6月着工)

建設面積 : 1.580㎡

延床面積 : 4.557㎡(地上3階建)



在来種にこだわった屋上緑地



新技術開発棟の外観

企業理念

創業当時から脈々と伝わるエスペックの大切な価値観企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起点

社会の公器として、すべてのステークホルダーとより高い価値交換を目指す

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

エスペックの事業とSDGsとの関連

装置事業

サービス事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による 先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の 開発に貢献する製品、サービスの提供





環境保全事業

生物多様性保全への貢献

・生物多様性保全や地球温暖化防止 に貢献する自然再生事業の推進







植物育成装置事業

地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

- ・計画的に野菜を生産できる 植物工場の提供
- ・乾燥に強い植物の研究に 向けた植物育成装置の提供



39

エスペックの事業プロセスとSDGsとの関連

環境(E)

- ・地球温暖化防止への貢献
- ·環境負荷低減
- ・エコサイト・エコオペレーション
- ・汚染防止
- ·生物多樣性保全



















社会(S)

- ・顧客満足の向上と製品安全
- ・サプライチェーンマネジメント
- ・人権の尊重と多様な人材の活躍推進
- ・適切な情報開示、コミュニケーション
- •社会貢献

















ガバナンス(G)

- ・ガバナンスの強化
- ・リスクマネジメントの推進

・コンプライアンスの推進



40

環境への取り組み

- 環境中期計画に基づく環境経営 事業活動を通じた持続可能な社会実現への貢献を目指す 現在は「第7次環境中期計画(2018~2021年度)を推進中
- 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」 地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施 1997年、創業50周年を機に設置
- 森林保全活動「毛原の森づくり活動」 2018年3月「国連生物多様性の10年日本委員会」連携事業に認定 2007年より開始、当社の社員ボランティアなど延べ1,000人以上が参加
- エスペックみどりの学校 環境教育等促進法に基づく人材認定等事業 地球環境のことを考えるリーダーの養成を 目的に全国各地でセミナーやイベントを開催



生物多様性の取り組み

(2018年3月)

「毛原の森づくり活動『宝の山づくり』一京都モデルフォレスト運動」 「国連生物多様性の10年日本委員会」連携事業に認定

- ・「毛原の森づくり活動」は、当社とエスペックミックが福知山市大江町毛原自治会と 取り組んでいる森林保全活動
- ・「毛原の森に生息する多様な生物」=「お宝」と位置づけて新たな森の魅力を発掘する 「宝の山づくり計画」を策定し、草刈りや間伐などの保全活動や、いきもの見所マップの 制作、ウォーキングコースの整備などを実施



「毛原の森づくり活動」参加者



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています

社員がさらに活躍できる会社へ

女性活躍推進の取り組み



厚生労働省より、 子育てサポート企業認定マーク「くるみん」、 女性活躍推進法に基づく認定マーク 「えるぼし」の最高位などを取得



女性リーダー育成研修会

社員教育制度の充実

- ・企業理念の共有を目的とした研修会の実施
- ・国際的に活躍できる人材育成を目的とした グローバルトレーニープログラムの実施
- ・経営幹部育成および自己啓発を支援する 教育プログラムの拡充



グローバルトレーニープログラム 現地研修(アメリカ)

Quality is more than a word

